

Contents

難しさに向かうこと (04).....	1
第4回総会・活動報告会 開催！.....	4
プラスランチパーティ.....	5
G-Navi.....	7
NLGR2004 探訪/NPO・NGO フェア参加.....	8
活動報告・出版案内.....	9
お知らせ.....	12

難しさに向かうこと

シリーズ第4回目のテーマは偽陽性。スクリーニング、迅速検査で陽性と告知され、その後、確認検査で陰性だったというお二人にお話を伺いました。すべての方が同じ経験をしているわけではありません。しかし、陰性と陽性のはざま、検査と支援の谷間で埋没した“陽性かもしれない”という経験からこそ見えてくる問題があります。(確認検査で陰性だった場合は過去を振り返って“偽陽性”だったということになりますが、ご本人の当時の理解と心境をふまえて、インタビューの中では“疑陽性”の字も使っています。)

聞き手: 生島 嗣

(04)「偽陽性」という結果に向き合う難しさ “告知を受ける”“結果を待つ”ことの重み

[女性 30代 Kさんの場合]

HIVの検査を受けることになった経緯からお話いただけますか。

婦人科系の病気があって、その手術をしないと妊娠が可能じゃないと言われてました。子供が授かればって思って手術を受けることにしたんですけど、そのための術前検査っていう形ですね。

HIVの検査について説明してくれたのはドクターですか？

説明らしい説明は特になかったんですけど、他の検査といっしょに「HIVの検査をしますか?」と言われて、何かの書類にサインをしたのを覚えています。自分がまさかHIVなんて考えもしなかったんで、あまり深く考えずに採血をしてもらって帰りました。

検査結果はどのようにして知ったのですか？

4日目だったと思うんですけど、ケイタイに看護婦さんから電話があって、検査で引っかかった項目があったので、できるだけ早いうちに病院に来てくださって。そう言われて何も聞かないわけにいかないっていうか、待てなかったんで、命にかかわることかどうかだけでも教えてくださいって頼んだんです。じゃあドクターとお話してくださいということで、今度は先生からあらためて電話があって「HIVがプラスでました」と言われました。本来このことを言うのは電話ではまずいのですがとか、そのとき初めて、何とか検査法と何とか法があって、今回出たのは疑陽性ということだといったようなことを言われました。とにかく予定し

ていた手術は中止にしますから、そっちのほうの検査をきちんとして結果がわかってからもう一度手術をするかどうか検討しましょうって。

聞かされたときはどんな気持ちだったんでしょうか？

ケイタイにかかってきたとき駅のホームだったんです。わたしひどく取り乱しちゃうほうなんです。でも、とにかく、いここに電話をしたんです。彼女も「まずいことになったね」って。「どうしようどうしよう」って言ったら、彼女はふれいす東京に寄付かなんかをしたことがあって、たまたま領収書を持っていて電話番号を覚えてくれたんです。それで公衆電話でしゃがみこんで電話していたら、カードがきれてビービー言って、そばにいた知らない人に千円札わたして、テレフォンカード買ってって言って、ほんとすごい状態だったから、隣にいたおばさんもなんか声をかけてあげようってわかってこっち向いているんだけど、「ほっといて」って感じで、でもそういう状態、すごい状態でしたよね。30分あとに仕事のアポがあって他のところに行かなくちゃいけないので、取り乱してもいられなかったんですけど。



でも、最後は「わたしこれから仕事行かなくちゃいけないんで」って言っていましたけど。

立ち直ったのかしら。ひとしきり泣いたあと。生島さんに「何が一番怖い?」って言われたとき、そういえば何が一番怖いんだろって考えたら、正気にもどったっていうか……。もしほん

とうに陽性だったとしても、生活はなくならなかつたわけだし、ほんとうにそうなっちゃえばどうなるかわからないけど……。とにかく仕事に行きました。ドタキャンしない主義なので。

その日のうちにご主人に話をしたそうですね。

なんでもかんでもつらいことも言っちゃうんです。わたしの家族が結婚に反対して彼がつらい思いをしたこともあるし、彼が原因で私がつらい思いをすることもあったけど、なんでも話してきたんです。だから、今回のことも黙っているっていうのはまったく想定になかったです。その日は5時くらいに会社から帰ってきてくれて、家の近くの駅前の喫茶店で待ち合わせして、そこで話をしたんです。主人は、わたしがもう妊娠できないって宣告されたかと思っていました。そうじゃなくてHIVだってことを話しました。私の前ではまったく動じなかつたんですけど、さすがに2日間眠れなかつたって後から聞きました。

その後、確認検査をしにいったのですね。

次の日に主人といっしょに病院に行って、先生からそのとき初めてきちっと話を聞きました。スクリーニング検査というんですね、陽性が出る確率が書いてある文献にアンダーラインがひいてあって、1000人に3人くらい出てくるけれど、そこからもう一段踏みこんだ検査をすると、本当に陽性なのかどうか分かるっていう説明が飲み込めたのが、やっとそのときだったんですよ。でもいまさら説明されてもやっぱりダメなんです。疑いがあるって言われてるわけだから。帰りの電車で、この車両に何人乗って、何人が疑陽性でそのうちの何人が本当に陽性でとか考えてたの覚えてます。

再度採血をして確認検査の結果を待つことになったわけですね？

そうです。結果がでるまで、10日から3週間とか、わけわからないこと言われました。主人はすごく気持ちが強い人だから、なつたらなつたで仕方ないけど、大丈夫だよってずーって言うてくれていました。でもわたしは絞首刑の台に立たされたみたいでした。わたし、仕事で大きなミスをしたときとか、すっごい失恋したときとかも、別に死ぬわけじゃないしって言い聞かせてきたんですね。だけど、今度はそうは思えなくて……。

確認検査の結果はどうでしたか？

結局5日目に結果が出たんですね。私と主人は結果ができれば病院に行って聞かなくちゃいけないんだって思っていたんですけど、電話をいただいて、陰性でしたから来なくていいということだったんです。お医者さんのほうとしては一刻も早く伝えたくたらしいんですけど、いい情報は、こっちの気持ちとしては、貯金がどれだけあって一年にどれだけ取り崩したらどれだけ暮らしていけるとか、もうそんなことまで考えちゃっていたのに、陰性だから来なくていいですって、ねえ！

今回のことはご主人との関係性みたいなことが試されることでもあったのでしょうか？

子供が欲しかったので、ちゃんと調べないと40歳まで時間がないので診てもらったら、それどころじゃあない、手術しないと妊娠なんかできないですよという。それで血液検査したらHIVでしょ。わたし周囲に反対されたまま結婚していて、もうこれ以上わたしを発信源に迷惑をかけられないよなっていうのがあって……。

わたしけっこう勝気だけど、主人がいてくれて、今回のことだって、辛いこともいっしょに助け合ってやっていこうって言うてくれたからなんとか乗り切れたんだと思うんです。地方から出てきて一人暮らしだったりしたら、そりゃあ大変なことですよ、なんのサポートもなく陽性かもしれないなんていわれて一人で待ってるなんて。

この検査に関して何か言いたいことはありますか？

わたしね、被害を受けたって感じはありますよね。だってこちら側は早く結果がわかる方法でお願いしますって言ったわけでもなんでもなし。それでも、もし検査する前にスクリーニングのこともちゃんと説明されてたんだつたらまだしも、そうじゃなくていきなり疑陽性といわれてもねえ。お医者さんの常識と、こちら側の常識って違うんですかね。

ご自分のこととしてHIVについて考えることになったわけですが、なにか気持ちに変化はありましたか？

HIVのこと怖いと思っていたのはもしかしたら間違いかもしれないけど、けっこう付き合っていける病気なんだなって。エイズって聞くと、人が腐っていっちゃうイメージがあつたんですよ。できものが治らなかつたりとか、衰弱していつたりとか、そういうイメージって変わっていかなくちゃいけないんじゃないから。お医者さんとかは早く検査をして早期発見に一生懸命になっていて、ぶれいす東京とかは陽性になってしまった人をサポートしているわけですよ。この二つって結びつかないのかなって思いますね。イメージが変わらないまま検査受けるのってつらいでしょ。

なかなか聞けないお話をさせていただいてありがとうございました。

どうしてわたしが、なかなか聞けないような経験なんかしちゃつたんだろう、ねえ（笑）

[男性 20代 Sさんの場合]

HIVの検査を受けるきっかけはどんなことだったのかお話しいただけますか？

自分はセックスに関してオクテなほうで、それまであまり経験がなくて、端的に言うとお初体験が風俗のちょっとオモテ系でないところだったんです。頭の中ではいろんな知識はあつたし、予防もしたつもりだったんだけど、ちょっと引かかるところがあつて、不安になって、それで検査を受けてみようと思ったんですね。そのころはもうネット上にかなり情報があつて、当時は保健所でやっているのだったら1週間かかるけれども、いくつかのところで有料だけど迅速検査、行ってすぐ結果がわかるというのをやっているって知つたんです。もともと性格的に早く結果がほしくなるような、ちょっと強迫的なところがあるんです。それで、あるクリニックに電話したら、いつでもいいって言うのですぐ行きました。

検査についての医師の説明はどういうものでしたか？

血液をとって、これにたらずだけで15分で判定が出るということでした。クリニックに行くまでは具体的な検査方法は知らなくて、すぐに結果がわかるということだけで行つたので、ああこういうものなんだなつてわかつた。精度とか、ほかの方法とくらべてどうかとか、そういうことについての説明は特になかつたように思います。それでも自分がかまわなかつたんですよ、そのときは。

結果はすぐに教えてもらったんですね？

一回外に出て、駅の近くでコーヒーかなんか飲んで待ってました。それだけで、僕はそわそわしちゃつてダメだったんですけど。戻つて診察室に呼ばれて入つてみたら、これなんだねって先生が検査紙を出してきたんです。「うっすらでますねー」って言われて、否定はできないくらいの濃さで黒い線が出てるんですよ。じつは保健所が言っているウィンドウピリオドより1週間くらい

早く行っちゃったんですけど、先生は、7週でも充分に結果は出るはずだと思って言っていました。何度もこの検査で見ているけど、陽性だと出るときにはもっとはっきり出るから、これはたぶん違うと思うんだけど「申し訳ないけど、わかりかねる」と言われたんです。僕もそうだなと思いました。それでPCR(HIVの遺伝子の一部を検出する検査方法)をやるよということになって、またお金がかかっちゃうんだけど、たしか1万円だったのかな。だけど、この検査ではっきり教えてあげられなかったからってということで、5千円にまけてくれたんですよ(笑)。それで、もう一回採血をして、PCRは業者に出すから1週間はかかると言われて帰ったんです。

PCRの結果を待っている間の気持ちはどんなだったんですか？

もう、それを待っている間はほとんど神経症になっちゃって、なにやっても手につかなくて。僕は大学が理系でちょっと化学の勉強をしていたので、この検査結果どうなんだろうといういろいろ調べたり、7週だとほぼ出るはずだと思ったり、そうともいえないかと思ったり、ものすごい不安が強くなってしまって、ホントあのころ僕はおかしくてね。とにかく長かったです、結果が出るまでが。

その時は情報を探すという行動以外に、誰かに相談をするということはしたんですか？

いや、それはできませんでした。一方的に書いてある情報を探すだけで、誰かに話すことはできませんでした。僕なんか、いろいろなことべらべらしゃべっちゃうほうなんですけど、それだけは言えなかったですね。自分がセックスをした経緯が、これはすごい偏見であることを今ではわかっているんですけど、外国人だったんですね。結局そういうところで、セックス自体になんか後ろめたい気持ちがあって、その結果の検査なわけで、それで困っているとはとても言えなかった。学校があったんですけど、その1ヶ月くらいはかなり休んじゃって、そうとう参っていたような気がします。普通ならもうちょっと相談してもよかったですかもしれない。精神的にも厳しくて、大学院の修士課程にいて、論文だ何だそんなときに遊んでんよって感じがするんですけど、むしろしゃべってたのもあるし。わかってもらえないかもしれないけど。

それで1週間後にPCRの結果が出たのですか？

いや、1週間で出なくて何回か電話をしたんですけど「すみませんまだ来てないんです」みたいなことをくりかえして、それもまた不安のたねでした。結局2週間後に結果がでて、検査機関から先生に届いた用紙のコピーを貰いました。その内容は、検出限界以下で、先生はもう大丈夫だと、これだったら感染してないだろうとおっしゃって、ああそうですかと、ちょっとホッとしました。

だけど結果的にあと2回保健所の検査に行ってるんですよ。納得いかないところがあって。検出限界以下なんですけど、PCRの結果も7週の日を採ったわけだし……。迅速検査の結果が灰色で出るとは、今になるとあり得ることだってわかるんだけど、やはり白黒どっちつかない結果になってしまったことが気持ちの中に残ってしまったんですね。それでまたネットで調べまくって(笑)

その後の、保健所での検査は、どうだったのですか？

最終的には12週の時点での検査結果が出て、保健所の医師に、完全に陰性と出ているから大丈夫だよ、期間も充分たっているからとはっきりいわれたのが、自分のなかではストンと信用できました。

検査全般をふりかえってなにか言いたいことがありますか？

早く知りたいというのはほんとうにその通りで、結果的に偽陽性だったからって悪いものとは思わないし、医師の説明が納得できなかったわけではないし、あれで仕方なかったんじゃないかと思うんです。でも、あの検査が白黒つかなかった結果、不安だけが大きくなってしまって、僕にはそれをどうすることもできなくなってしまったんですね。

今後再度検査を受けるようなことになったときに、どういう検査法を選びますか？

僕は一週間待って通常の保健所の検査かな？迅速検査はこりごりです(笑)。要するに検査紙に黒い線が出るかどうかなんですけど、はっきりするようで、実はあいまいで、見えるような気がしてきちゃうんですよ。でも、やっぱりその場で知りたいから迅速検査を選んじゃうのかな？うーん、どうだろう？一時間で確認検査までやってくれてと思いますよ。

これからも偽陽性という結果を受け取る人がいるわけですが、そういうときってどういうことが役に立ちますか？

僕はもう感染しているかもしれないと思って、それを前提で今HIVがどうなっているのか調べてみたんだけど、80年代みたいな絶望的な状態ではないことはわかりました。そういうことを知ったからといって万人にとって救いになるかどうかはわからないんですけど、どっちになったとしても、道はあるんだぞということがわかったのはホッとしましたね。

必要なのは情報ですか？それとも他になにかありますか？

単に情報じゃなくて、直接人と話すことが、電話でもいいんですけど、すごい大事だったなぁと今になって思いますね。あまりバーチャルな方法でなくて。医者だってこんな例にたくさん当たっているわけではなくて経験がないし、僕だって結局のところ情報を集めても、混乱してるから自分にどう当てはめていいのかわからなかったんですよ。

不安だから何度も検査に行くんですけど、やっぱり、そういうときに安心させてもらう一番の方法はたぶん検査じゃなくて、だれかと話しながら時間を過ごすことだったんですよ。だから、僕は間違ったんですね。逆に不安になるほうを選んだのかもかもしれません。当時はわかんなかったですね。待たなきゃいけないんだから、うまく時間を過ごさなきゃいけないんですよ。

HIVやセックスに関して、今回のことで何か変化がありましたか？

HIVがぜんぜん無縁なものではないって実感しましたね。偽陽性という結果で、そこにはウイルスがいなかったわけですけど、それはあくまで、たまたまだったなと心底思うんです。結果的に今回は感染しなかったけれども、予防するかしないかなんて紙一重で、どっちに転んでもおかしくはなかったなという気持ちです。こんな思いをするんだったらちゃんと予防したほうがいいですよ、ほんと。

どうもありがとうございました。



ふれいす東京 第4回総会・活動報告会 開催!

5月29日、豊島区立生活産業プラザにおいて、特定非営利活動法人ふれいす東京の第4回総会、および2003年度活動報告会が開催されました。10周年という節目に、活動報告会には50名以上の皆さんにご参加いただき、大盛会となりました。ホームページのスタッフの日記でおなじみの二人が当日のレポートを担当します。

「総会・活動報告会レポート」

福原 寿弥 (パラサイト牧原)

梅雨入り目前のさる5月29日、総会・活動報告会が行われました。「この会場を使うと雨のことが多い」との声もありましたが、当日は晴れて気温も25度を超える夏日となりました。(これも日頃のスタッフの行いのたまもの?)

今年では会場の都合で18時開始予定でしたが、開催側の不手際で開始時間がずれ込み、予定が押せ押せになってしまいました。特に総会では、出席された会員の方々の意見を十分に反映できるような、余裕を持った進行為反省点のひとつとなりました。(そうですね...反省...)



活動報告会の受付にて「懇親会もどきぞ」

活動報告会の参加者は(なんと!)約50名。十数名の各部門報告者が次々と出てきては、押しした持ち時間を気にしながらも実感のこもった発表が行われていました。各部門の一年間の成果を聞いていただく僅かな機会に、しっかり凝縮して準備してきているわけですから、そう易々とは短縮できないであろうことが忍ばれました。(司会兼タイムキーパーも同じく反省...)

新たな動きとして、ネストの部門において、利用者でもあり積極的に企画の運営にも参加していただいている陽性者の方に、直接意見や経験を話していただくことができました。守秘義務等のグランドルールを厳守していただくことが前提でしたが、何ものにも代え難い貴重なお話を伺え、感動的でした。多くの陽性者が運営に関わってくれているのだと、皆様にもおわかりいただけたのでは。あと、ぶ ちゃんの報告会おデビューもございました!

研究報告については、予防から当事者支援まで、幅広い調査が継続的に行われており、今後の成果に期待が寄せられました。(日々忙しい人達なのに、こんな研究をどこでどうやっているのだから...)

後半には、ふれいす東京設立10周年を記念して、「トークSHOW」が行われました。この10年間に変わったこと・変わらなかったこと、HIV/AIDSとの関わりがまだまだ浅い私には、心に響くものを感じました。(同感。スピーカーの方々、貴重なお話し本当にありがとうございました。)

会場撤収は一致団結し、驚異の2倍速?でなんとか閉館時間間に合うという、ふれいすっぽい(確かに)離れ技。またまた計画性が課題に。(同感。反省...)ちなみに、懇親会はいつにもまして盛況でした。皆さん新たな輪が広がったのではないのでしょうか!?(約30人のつわものが集ってありました。)

最後になりましたが、参加いただいた皆様ありがとうございました。(来年はもっと仕切れるようにこれからトレーニングに励みます。)



50名以上の参加者でほぼ満席

トーク SHOW より抜粋

「それぞれの10年を振り返る ~ Living Together のココロ ~」

根岸 昌功 (医師・駒込病院感染症科)

まだエイズという名前がついていなかったころ、駒込病院感染症科の一部で、組織や体制がとれる前の診療スタートでした。年々患者数が増えていく中で、写真週刊誌による実名報道事件がおき、日本はエイズパニックに。「エイズの患者はいません」と看板を出す病院まであらわれ、そして、エイズ予防法が成立、抗体検査の予約のキャンセルが相次ぎました。これは医療だけの問題じゃない、社会の問題だ。そう思い病院の外に出て活動するようになったんです。現在では他科との連携も上手くいくようになり、当時とは隔世の感がありますが、病院経営上の問題など相変わらず問題も多いのです。カスミがあれば生きていけるのが私の特技でして(笑)、ここまでやって来ました。

ひまわり (1994年に出産がきっかけで感染を知る)

私も10周年です。根岸先生と並んでると、そんなにベテランになっちゃったのって(笑)。田舎に住んでいるので、当時は他の感染者に会う機会もなかったし、子供に感染させてないかと心配もして、パートナーが半年後に亡くなり、立ち直るのに2年はかかりました。その後、他の感染者に会ったり、友達に打ち明けたりといったことがあって、自分の中でHIVの占める割合が少なくなりました。子育てだって趣味だってあるわけで、今では病気をただの病気と思えるようになったかな。最近、ネットで感染者の日記を読むと、この人は今こんなことを考えているんだろうって想像します。みんな、それぞれのステージがあるんですね。

張 由紀夫 (アーティスト) = ビデオ出演

古橋 二さんからエイズだと知らされたのがきっかけ。凛とした人だった。「いっしょに何かやろう!」っていわれて、僕も自分のこととして何かしようと思うようになった。エイズってなんだろう、死ぬってなんだろう。彼が亡くなってから、セックス・ワークを始めた。あれくらい力強くエイズ問題に関わる方法を見つけたから。いま雑誌とか見ても、エイズとかコンドームとか出てこなくて、文化的なレベルで根付いたものが少ない。この10年、欧米文化の視点でエイズをとらえて日本に当てはめようとしてたなと反省。渋谷のギャルたちにも、下町のおばちゃんにも聞いてもらえることばで話していきたいと思ってる。

池上千寿子 (セクソロジスト)

80年代にハワイ大学でセックスについての勉強をしていたころHIVと出会った。「ウイルスより人が怖い。しかし、人はウイルスより強い」当時得たキーワードは今も変わりません。HIVは医療や行政だけの問題ではなく、地域が変わっていかなくちゃいけない。そう思って帰国したら、日本でもゲイ・コミュニティが動き出していて驚いた。HIVって世の中を変える力をもっている。89年の国際会議の閉会式で、初めてPWAが発言をしました。「自分たちに必要なのは何か。自分たちが本当に当事者なんだ。自分たちぬきで何を語ってもらっても困る」目からうろこでした。当事者参加が国際会議の原則となり、やがて96年パリ・エイズ・サミットのGIPA宣言につながるわけです。HIVから多くのことを学んで、エネルギーもいっぱい貰いました。そのことが「ふれいす」の名前にこめられているんです。

(トークSHOW抜粋:文責 やじま)

「+ランチパーティ」開催

HIV陽性者、パートナーが参加することができる交流会「+ (プラス)ランチパーティ」が、5月23日にネストで行われました。SHARE、クリアチーボス、アーユス、JaNP+の協力を得て、国籍やセクシュアリティを超えた30名が楽しく集い、また気づきの多い交流会となりました。

「+ランチパーティーに参加して」 ヨシ

このパーティーは、2月のカップル交流会で次回の企画をいろいろ話し合った結果、これまではある特定のセクシュアリティだけしか参加していないので、もっとたくさんの人・国籍や性別や地域などの壁を越えて・が気軽に参加できるようにと企画されたものです。そして、僕も企画や運営の担当の一人として携わりました。でも当初は、何分初めてでもあるため、会場はどうか、料理はどうか、参加者の制限はするのか、などと試行錯誤を繰り返した後、5月に入ってようやく協力団体の確認も取れ、パーティーの内容や、流れなどが決まり、当日を迎えました。

さて当日は、一昨日の台風の影響なのか午前中には小雨が降り、5月なのに肌寒く、来てくれるだろうかと心配しましたが、12時を過ぎるころには会場一杯の人が来てくださり、用意したテーブルに料理が置けないぐらいでした。さて、生島さんの司会でいよいよ始まり、最初の挨拶を自分のパートナーがするので、自分が話さないのに緊張していました。グランドルールを確認し、SHAREの沢田さんの乾杯のあとに歓談となりあちこちに談笑の輪が広がり、とても和やかな雰囲気です。パーティーが進んでいきました。

途中で、カップル交流会や陰性パートナーミーティングなどの話をJ氏からしてもらった後に、JaNP+の長谷川さんから現在のHIVの状況などを話して頂き、最後に朗読した素晴らしい自作の詩を聞いた時に、まだまだ治療を受けられなくて困っている人や、治療していても周りに理解してもらえない人がいなくて、一人で悩んでいる人も、たくさんいるんだなあ実感し、パートナーを支えつつも(自分が支えられているかもしれないが)パートナーと共に、少しでもお役に立てればと思いました。

パーティーは終始和やかに、料理は不思議と重なることなく全ておいしくて、参加した人が本当に来て良かったという笑顔(と勝手に思ってるのですが...)だったので、開催して良かったという達成感で一杯になりました。参加した皆さんが最後にひとことずつ挨拶や感想などもお話ししてくれるのを聞いていて、さらに今年で終わることなく、毎年開催できればいいなと思いました。

「Thank you」 Green tea

プラスランチミーティングに行き本当に良かったです。このようなコミュニティの場に出るのは初参加で少し緊張もしましたが、自然にみなさんと有意義な時間を過ごす事が出来ました。私は紙に書かれている情報よりも来ている人の体験談など身近な話しが聞きたかったです。今の私を理解してくれる人、先輩が側にいることで気持ちがとても楽になりました。私の場合、地方に住んでおり東京ほど情報・コミュニティは無く、また家族・友人にも病気の事を隠しているため既に気持ちが一杯いっぱいでした。昨年後半から体調不良が続き毎日無理して生活をしていました。まさかその時はこの病気だとも思わなかったし病気への知識・認識を甘く考えていたからでしょう。今年二月に高熱で倒れ、たまたま拠点病院に運ばれ即入院、少し時間がかかりましたが病気がわかって告知を受けました。告知は今まで味わった事がない絶望感で自分が体から飛び出してしまうような感じでした。3ヶ月の入院中、病気にに関する情報は唯一ACCの手帳と先生や医療スタッフの話でした。退院してから私は病気にに関する情報・



話ができる方を探してネットサーフィンの日々でした。その時にふれいす東京のHPを見つけました。HPの内容でクリック出来るところは全てクリックし、かみ締めながら内容を読みました。イベント・学習のページのところに到達した時にプラスランチミーティングの募集を見つけました。その時点で3日前でしたが即メールで申し込みをしました。当日どんなランチパーティーになるのか正直少し不安でしたが周りの方のみなさんと料理が私の緊張をほぐしてくれました。とにかくみなさんが笑顔でフランクに接してくれました。話しの内容も薬の事や生活・仕事の事パートナーの事などなど、先輩方の話を聞いた時は医療者から聞くよりもとても身近に感じられ自分に対する自信も出てき、また温かい気持ちになりました。その時にやっと決めて一人じゃないんだと思いました。久しぶりにたくさん笑いました。帰りは何か少し体が軽くなった感じがした。家族からもいいこと何かあった?と言われるほどでした(笑)。次回またランチミーティングがあったら是非一品何か手料理を作ってください!! スタッフの方々・参加者のみなさん本当にありがとうございます。

「君は独りじゃない...」 ルイス

今回のパーティーはとても楽しかったです。ありがとうございます。書きたいことは沢山あるのですが、今回は少し控えめにコメントをすることに致します。

私がHIVに感染していることが分かった時、自分の周りにその事実を喋れる人が誰もなくて、自殺まで考えました。ここ日本で、言葉の通じないことが一番辛いことでした。言葉が分からないので、HIVに関する情報収集もできず、とても不安な日々を過ごしました。自殺をする場所と日にちまで決めて、その前日に上智大のミサに行った時、教会でポルトガル語で書かれてあるパンフレットを手にしました。そのパンフレットよりクリアチーボスのことを初めて知り、教会から出てすぐにクリアチーボスに電話をしました。その時電話を取った人がルイスさんでした。その後病院への同行、心のケア、バックアップ、社会復帰まで手伝ってもらいました...

先日のようなパーティー・ミーティングはとても重要だと思います。一人でHIVと戦っている人はまだ沢山いると思います。戦う力を持っていればまだいいのですけれど、生き続けることを諦めている人も沢山いるのです。このような会を、もっと幅広くそのような在日外国人に知っていただきたいと思います。各国の大使館や領事館、そのほか国連事務所、宗教団体、入国管理局、区市役所の外国人登録係、国際交流協会等に、先日のようなパーティー情報のパンフレットを配布、もちろんこれからの花火大会の情報も、そして外国人向けのホームページに情報を流して困っている人を温かく迎えてあげてはいいかがでしょうか。皆さんのすばらしい活動をもっと沢山の人たちに、知っていただきたいと思います。また皆さんと次の機会に会うのを楽しみにしています。

「在日外国人コミュニティとHIVをめぐる」

アーユス仏教国際協力ネットワーク 枝木美香
私は、在日外国人の方でHIVに感染した方のサポートを仕事の一部としている。支援者のネットワークを作り、協力しながら医療通訳を派遣したり、治療にたどり着けるような支援をしたり、もしくは無事に帰国できるためのお手伝いなどを行っている。特にタイ国籍の方や、英語圏の方のサポートを中心にしているのだけど、当事者同士の連携を図るということは、特にタイ国籍のコミュニティの中ではまだまだ難しい...この場を借りて理由を考えてみたい。

滞在資格がない！保険を持っていない！更生医療を使う権利がない！ないないづくしになってしまうのが、超過滞在者の場合。日本に在る限り、治療につながる見込みがないために、多くは帰国を選択する。免疫力が残っていてまだ働ける場合は、ある程度のお金を貯めるまで頑張る場合もあるけれど、多くの場合は症状も進んでいるために、体力があるうちに帰国する人が多い。

日本人との婚姻関係によって滞在資格はあって、治療もつなごうけれども...

「パートナーの生活が安定していなくて、まだ働かないといけないうのです」住んでいるところが遠くて、ちょっと都内まで出てくるのは大変(外国人を雇用する工場は都心にはない)です」「パートナーと一緒に暮らしてはいるけれど、もしかすると別れるかもしれない...このままだと滞在資格を失うかもしれない、とっても不安定な状況にいるのです」他に同じような境遇のタイ人がいるのかしら？いたとしても私が置かれた立場は特別だから悩みを共有できるとは思えないわ」「自分のことは自分でなんとかできるから...」「今、一生懸命に日本社会で妻として生きようと思っているので、他の活動にまで頭がまわりません」などの言葉が聞こえてきそう。日本人の目から見れば、比較的にシャイな人が多いと思われるタイ人が、諸条件をクリアして日本人感染者と交流を持つに至るには、まだまだたくさんのステップを踏まないといけないと思う。しかし、特に日本人のパートナーを持ち、これからの人生を日本で過ごそうと考えているタイ人感染者にとって、日本社会の感染者コミュニティの中に入って行くのは、悩みを共有し、情報を交換し、そして元気をもらうことにつながると思う。タイ人と日本人カップルの場合でも、どちらかが非感染者ということはあること。同じような立場の人々と交流することで、カップル間でこそ生まれる悩みでも解消の道が見えるかもしれない。

今回の+ランチミーティングも、ここまで大きく開催されるようになるまでには、長い道のりがあったと聞いた。外国人コミュニティも、まずは同じような境遇の人とか比較的同じような地域に住む人たちに声をかけて、お茶会からでも始めるといいかもしれない。私自身、サポーターという立場で参加させていただいて、とっても楽しくて元気になる時間を過ごすことができた。タイ人感染者とも、こんな楽しい時間を共有することができるのなら、タイ人コミュニティにも何か変化が起きるかもしれない。今、そんな考えが頭の中を駆けめぐっている。

「うれしかった」 ミャンマー人の男性

わたしは、ぶれいす東京と会って、とてもうれしいです。私たち、外国人の病気のために助けてくれる、ぶれいす東京のグループとてもありがとうございます。私達、外人のためにもとてもパワーをもらうみたいな感じになりました。だから、ぶれいす東京ほんとにありがとうございました。



この病気のために、いろいろ助けてくれたから、うれしかった。入院した時には、自分と違う病気の人と一緒にだったので、話したことない。さわだ先生にあった、一番よかったのは、医師にあったこと、彼にであえてよかった。うれしいです。わたしの病気のための、いろいろ助けてくれたからうれしい。

さわださんから、他の国の人がくるかもしれないといっていた。一番たのしかった。パーティでは、みなさんといろいろなことを話げできた。前にネストでみたことがある人に一人だけあったけども、パワーをもらうような感じになる。自分の身の回りはそういうことがぜんぜん、なかったから、とてもよかった。自分の病気のこととか、自分の感じのことを話したから。

また、チャンスがあったら、ぜひ参加したい。

「+ランチパーティを終えて」 JUN

去る5月23日に行われ、大盛況のうちに終了した+ランチパーティについてスタッフからも活動報告をとのことで、稚拙な文ではありますが、ペンをとり、いやPCに向かっての次第です。

そもそもなぜ今回の企画が生まれたかということ、源泉をたどると行き着く先は陰性パートナーミーティングになります。陰性パートナーミーティングに顔を出していた方々がパートナーも交えて一緒に食事をしたり、遊びに行ったりしたいねと言って始まったのが、カップル交流会です。過去に数回、このカップル交流会が行われてきましたが、集まるのはいつもゲイのカップルばかり。それはそれで気兼ねがなくて楽しいのだけれど、やはり本来の趣旨とはちょっと外れているのかもしれないと思っていた矢先のこと。2004年1月の交流会にヘテロカップルが参加することになりました。ところが、直前に不参加となり、結局はその日もゲイのカップルだけになってしまったわけです。翌2月にはカップル交流会のメンバーが中心となり、初の「カップル」の枠組みを超えた集まりである「交流会」が企画され、秩父へ毎狩りへと出かけていきました。でも結局この時も集まったのはゲイばかり。流石に1月の出来事もあったので、ヘテロカップルも参加できるイベントはないものかと皆で思案した結果、いきなり外に連れ出すよりも、まずはネストで慣れてもらって、徐々にセクシャリティーの垣根を越えていった方がいいのではないかという結論に至り、ネストで食事会をしようという原案が出来上がりました。

そして、その場の成り行きで僕と僕のパートナーを含む4人(2組のカップル)が実行委員として動くことになったわけです。その時に生島さんが「日本に住んでいる外国人の陽性者とも交流しない？」と言出し、今回の企画が生まれました。

打ち合わせは3月に入ってから数回行われました。できれば、外国人支援団体の方々にも話し合いの段階から参加してもらいたかったのですが、結局その目標は果たすことができず、次回以降の課題です。

話し合いの場で一番の問題になったのが、会場の収容能力でした。当日何人来るのか想像ができなかったから、果たして本当にネストで入りきるのか、他に場所を探した方がいいのではないかと様々な意見が出されました。ただ、ネスト以外の場所にした場合、果たしてヘテロの方々の参加を促せるのかというところは、かなり採めました。ネストでやるからこそ当初の目的が果たせるのではないかと。最終的には井勘定的に参加人数の判断をして、ネストに決定して結果的には正解でした。

準備段階で何が一番大変だったかって、たぶん僕と僕のパートナーは間違いなく「翻訳」と答えると思います。確かに日常会話をする分には支障がないくらいに外国語を操ることはできると自負していますが、まさか翻訳までしなければならぬなんて思いもしませんでした。正式に外国人支援団体にも声をかけようということになった際に、生島さんから「案内を各国語版に翻訳できたらいいね？」なんて言われて、ついうっかり(?)「そうだね」なんて言っただけに、案内文の翻訳から当日の挨拶・グランドルールまで、さまざまな日本語を外国語に翻訳する羽目になりました。正直言って、こんなにまじめに外国語への翻訳をしたのは初めてでした。しかも、相談のできる外国人が周りにいないために、「カップル交流会」等々一人では考えあぐねる表現なども多々あり、頭を抱えました。

そんなこんなで迎えた当日。ヘテロカップルや外国人の方々も参加し、各国の料理を堪能し、楽しいひと時を過ごすことができました。そして、自分として何よりもうれしかったのは、某国で僕が陽性者ほやほやの頃にお世話になった方々に、数年ぶりに日本で再会することができたことでした。

企画の段階では第2回なんて考えもつきませんでした。参加された方々からはかなり好評で、もしかしたら定例化するのでは？なんてことが頭をよぎっています。もし第2回+ランチパーティが開催されるのなら、今回来ることができなかった皆さんも次は是非参加してみませんか？一人でもカップルでも日本人でも外国人でもきっと大歓迎されること間違いありません！

G-navi ~ 東京ゲイライフ入門 ~

この春、東京で新しい生活を始めた人に、より楽しくTokyo Gay Lifeを送るための、情報やコミュニティを紹介するイベント「G-navi」が5月9日に新宿文化センター和会議室で開催されました。

(主催：財団法人エイズ予防財団 企画・運営：ぶれいす東京)

当日は生憎の小雨でしたが、35畳+縁側の会場はいつの間にかほぼ満席となっていました。この催し「新人向け情報紹介」の形をとりながら、実は今まで積上げてきた様々な「予防啓発ツール」の紹介を織り込んでいることがぶれいす東京ならではの、年度も変わった5月に新たに街に繰り出す「ゲイライフ初心者」に、Safer Sexについても考えるきっかけにして貰えば...と願っての開催なのです。当初堅めだった会場の雰囲気も司会者コンビ、たかし&綾女の絶妙な掛け合いに引込まれ、次第に笑いが絶えないものになりました。

来場者のご意見を知るためにアンケートを実施、39通を回収しました。年齢は10代7人、20代23人、30代・40代・無記入各3人。催しを知ったきっかけはWebサイトと友人知人が拮抗。行ったことがあるゲイ向けの場所はバーが最多、今後行きたい場所はクラブが最多でした。内容については、5段階評価で上位に集中と、高い評価が得られました。自由記述には「このような企画があればまた参加したい」「ドラッグクイーンの方の人間性や温かさが伝わった」「今からでも遅くはない!」「初心者ではないが学ぶことも多かった」「手話通訳者がいたので内容がわかり良かった」「女装ってステキ」等々、さまざまな意見が寄せられ、金子みすずの詩の一節「みんなちがって、みんないい」を実感した一日でした。

(報告：吉田)



たたみに座布団、和会議室ならではの様子

第2部 予防啓発パフォーマンス「タートルズ SHOW」

今回のタートルズは『おかまの保険=コンドーム』をキーワードにちょっとした寸劇を行いました。物語は、生命保険会社(タートルズ生命新宿二丁目支店)を舞台に、セールスレディ(ドラッグクイーン)が『おかまの保険』を普段コンドームを使用しなかった顧客(仕込みのお客)に対して、コンドームは性感染症から身を守る保険であるとアピールしていくというもの。支店長役のひろたか君と成績の悪いセールスレディ役のあにーた嬢を中心に、ゲストのドラッグクイーンが絶妙なアドリブで会場を湧かせてくれました。寸劇自体の課題が、コンドーム使用の阻害因子と解決策をどう見せるか、インパクトのあるSHOWにするにはどうするか、もっと色んな人がタートルズに関われないか、だったのでそれらは達成できたのではないかと思います。



原田さんのスーツがピッタリのあにーた(右から2人目)

【キャスト】支店長...ひろたか/成績の悪いセールスレディ...あにーた(ドラッグクイーン)/トップセールスレディ...綾女(ドラッグクイーン)/うさぎ生命よりヘッドハンティングしたセールスレディ...L(ドラッグクイーン)/コンドームを使わない客A...RYOJI(GUTS主宰・某ヤリ部屋店員)/コンドームを使わない客B...親方/コンドームを使わない客C...亮吉

第3部 交流タイム

トークタイムで聞けなかった話を直接スピーカーに質問したりできるように、ゲスト出演者やぶれいす東京スタッフも来場者の中に混じって幾つかのテーブルを囲んで自由に会話を楽しんで貰いました。中には参加者同士で話が弾み、友達になれた人もちらほら居たようで良かったと思います。ただ、一人で参加していただいた方やまるっきりの新人さんは緊張のあまり、なかなか自分から話を切り出せない人も居たかもしれません。この辺は、また次の課題になってしまったかなと考えています。(報告：亮吉)

雨降りの中、たくさんの方の来場に感動しました。「トークショー」本当にためになるお話でした。裏で作業していたのであまり聞けなかったのがもーくちおしい。絶対ビデオをまたみるわ!

出演者の皆さん、素敵!!!さて三流演技女装のあたくしめが出演した「タートルズショー」は、お客さんの同情の拍手の嵐に心から感謝です。(シーンとなったらどうしようという不安がずっと抜けました)内容は3つの因子を分かりやすく伝えられていたみたい。ひろたかさんや他の出演者様のおかげです。「交流会」も話が弾みまくりで雰囲気よかったわ。個人的には司会をして下さった綾女ちゃんなど知り合いとしか話していなかったのもっと女装を怖がる子に嫌がらせをすればよかったと後悔しています(笑)。全体を通してサブタイトルにもあるように東京でのゲイライフをこれからしていく上でとってもよいイベントだったと思うわ。お客さんがたくさんゲイライフについて知ることが出来たし、HIV/AIDSやSTIの知識ももてたし東京のゲイライフを送りやすくなったなーと思って下さっていたら本望です。

(報告者：あにーた)

<プログラム内容>

- 第1部 「新人」向けの東京ゲイライフに役立つ情報提供
“その道の「プロ」がわかりやすく行います”
「web」入門...まなぶ(スタジオスタッフ/@-nice)
「クラブ/2丁目」入門...L(ドラッグクイーン)
「ハッテン場」入門...RYOJI(GUTS主宰・某ヤリ部屋店員)
「Safer Sex」入門...雄介(合コム/Rainbow Ring)

第2部 予防啓発パフォーマンス

- “コンドーム使用テクニックを楽しく教えちゃいます”
出演：タートルズ(ぶれいす東京内男性ユニット)

第3部 友達作りの場としての参加者の交流タイム

G-naviを開催して

第1部 「web」「クラブ/2丁目」「ハッテン場」「Safer Sex」

それぞれの分野に関わりのあるゲストがわかりやすく話してくれました。インターネット上で出会う方法や注意点、パーティの選び方のポイント、ハッテン場でのコミュニケーションのとり方やリスクについて、そしてSafer Sex バイクに乗るときはヘルメット、セックスをするときにはコンドーム



といった、ゲイ歴10数年経ってしまった僕にとっても役立つ情報がたくさんで初心者の方はもちろんの事、上級者?の方にも役立つのではないかと思います。

司会のたかし(左)&綾女(右)中央はゲストのまなぶ君

NLGR 2004 探訪

6月5-6日名古屋にてNLGR2004 (Nagoya Lesbian & Gay Revolution 2004) が開催された。ぶれいす東京のGAYグループを中心に10数人がツアーを組み名古屋入り。田口弘樹写真展も2日にわたって開催された。



「NLGR行って来ました！」 りきや

6/5、6の両日、名古屋のNLGRに参加して来ました。HIV啓発を主軸にしたゲイ&レズビアンイベントなのですが、一昨年、初めて参加した時にここで検査を受け、陽性告知を受けた思い出の(?)イベントなんです。メインの池田公園を中心に、市内のあちこちでいろんな催しが行われました。

初日は真夏並みの晴天で、まさにお祭日和。前日から名古屋入りしていた私は、友人とひつまぶしを食べ、まずは池田公園に向かいました。パザールや占い等いろんなテントが並び、少し離れた駐車場では、ドラッグの有料イベントが行われていました。近くのホテルでは、かつて自分が受けた無料血液検査が行われていて、今年もたくさんの方が足を運んだようです。地元の友人も合流して、田口弘樹さんの写真展に向かいました。写真自体は東京で見えていたのですが、今回さらに増えていた「手紙」をじっくり読みました。身につまされる物もあって、心にしみました。昼間から開いているバーで喉を潤し、夜はこれまた名古屋名物の手羽先を食べて、ゲイナイトに繰り出しました。会場が比較的狭く、出会い系イベントとしてはちょっと盛り上がり欠けていたかも...。イイ男はいっぱいたんですけどね(笑)。何軒かバーをハシゴして、深夜まで騒いでました。

明けて二日目は朝から雨。この日梅雨入りしたそうで、せっかくのイベントが...と思っていたら、昼前から雨は上がりました。恐るべしパワー。JaNP+の長谷川さんのトークショーを見て、笑いながらも同じ陽性者としての言葉に共感したり。生島さんもHIV関連のクイズ大会で大活躍していました。ラストは、三組の合同結婚式でのエンディング。本物の神父さんが取り仕切って、厳かに式が行われました。ちょっと羨ましかったかな。最後にスタッフ全員がステージに上がり、泣きながら歌う姿に感動したりして。こういうイベントを陰で日向で支えていた彼らの苦勞に拍手。素敵なお二日間になりました。

今回、昔からの友人にたくさん再会できたり、個人的にとっても思い出深い旅になりました。告知を受けたこの土地で、また少し元気ももらって帰途につきました。また来年も行けるといいな。

田口弘樹氏インタビュー

Q: NLGR で写真展をすることになったいきさつは?

A: LIVING TOGETHER manual (LTM) 製作のために写真をとったあと、東京、大阪で写真展をやってきたのだが、最初はどさくさで、写真展やれるんだわーいくらいのノリだった(笑)。でも、ああいう場所、人が出入りできて、それでいて、まったりとした「場」をつくれたのはよかった。

Q: 今までやってきた個展とは意味が違うの?

A: 僕の写真展だったら、写真を入れ替えて進化していかないといけないけど、LTMの写真展は、すでに自分の手をはなれて、セットがめぐっていくから、自分の名前も出なくてもOKだと思っている。結局のところ、LTMがいろいろな人の手にとってもらえるのがうれしい。写真展を一生懸命やっているうちに、どんどん予想以上のセットになり、なんかインスタレーションをしているみたいな感じ。写真とメッセージという発想に、さらに陽性者の手紙集が加わって、ビデオができて、音を選んで、みんなで、もんでやわらかくして、いいものになった。

Q: 前から HIV に関して何かしていきたいという気持ちがあった?

A: ゲイ雑誌のグラビアばかりやっているの、なんかできないかっていう気持ちがずっとあった。自分にとってちょうどいいやり方でできたのはうれしい。自分は写真を撮って、場所が決まったら写真の展示の仕方を考える。自分ができることだけでできて、雑誌とかにも取り上げられることをしようと。

Q: やって良かったと思うことは?

A: 雑誌の読者の人が、写真展を見に来てくれている。中にはデリヘルになった人がいる。その人は、看板をしまい忘れた日に、朝、たまたまその前を通りかかり、翌日展覧会に来て、今では新宿2丁目 condom 配りをする、デリヘルというボランティアをやっているんです。僕はそういうのを望んでいたもので、とてもうれしい。

日米コミュニティ・エクスチェンジ NPO/NGOフェア

日米コミュニティ・エクスチェンジ (JUCEE) 主催のイベント「明日のコミュニティを創る」が6月11日~13日にかけて行われました。その中で6月11日のNPO/NGOフェアに、ぶれいす東京がブース出店という形で参加しました。

「NPO/NGOフェアに参加して」 マキハラ

当日はあいにくの雨でしたが国立オリンピック記念青少年総合センターへ新しい人材のリクルートを狙って勇んでいざ出陣してまいりました! 前日、今回の目的である9月のボランティア研修のちらしも作成し、その他資料や販売物、展示用のポップも作って、用意万端。完璧な店構えで望みました。(このデコレートは他のブースの出店団体からも大評判!) ただし、予測していない(個人的に)ことが勃発。参加者に外国人の方の参加も多くあり(まあ当然ですが) 共通言語が英語となったのでございます...。とても大変でございました。他のスタッフはしゃべれる人が多く、一人心でhelp me! と叫んでおりました。(この程度の英語が限界) 伝わりにくすぎる英語でブースに来た方とお話するなかで、興味深かったのは、以前NYのHIVの支援団体で活動していた方とお話したり、その他HIVのフィールドで活動したことのある方とお話できたことでしょうか。日本に来ている外国人の方で、母国で活動していた人がけっこういるもんだ~と初めて感じました。

その他、当日出店していたブースの団体の方とお話する機会もありました。女性支援団体、DVの被害者支援団体、等、比較的多く

の参加がありました。こうした、コミュニティでの横のつながりも必要なんだということも実感。それゆえに人見知りな私もできるだけいろいろな方と積極的にお話しなければと、その後に行われた交流会にも参加して参りました(ほんま疲れた...)。肝心のリクルートですが、参加者が少なく思うようにいきませんでした。コミュニティのつながりという点から有意義な時間が過ごせたのではないかと一人思った次第でございます。これが少しでも今後に繋がればとも思います。



いろいろなNGOがエクスチェンジ中!



ぶれいすスタッフ同士もエクスチェンジ中.....?

活動報告他

各部門より・出版案内

ホットライン

エイズ電話相談（ぶれいす東京および東京都委託）

ホットライン・ミーティング実施状況（ ）内は出席人数

4月

- 9日 東京都電話相談連絡会（3名）
- 24日 スタッフミーティング（8名）
ケースカンファレンス

5月

- 14日 東京都電話相談連絡会（3名）
- 16日 スタッフミーティング（7名）
ケースカンファレンス
- 27日 東京都エイズ相談連絡会
「東京都健康安全研究センター見学会」（8名）

6月

- 5日 世話人会（6名）
- 11日 東京都電話相談連絡会（4名）
- 27日 スタッフミーティング（9名）
ケースカンファレンス

相談実績報告

ぶれいす東京エイズ電話相談

	4月	5月	6月
日数(日)	4	5	4
総時間(時間)	16	20	16
相談員数(のべ人)	12	15	12
相談件数(件)	28	29	36
うち(男性)	21	24	29
(女性)	7	5	7
(陽性者)	0	0	1
1日平均(件)	7.0	5.8	9.0

東京都夜間・休日エイズ電話相談（委託）

	4月	5月	6月
日数(日)	13	14	12
総時間(時間)	39	42	36
相談員数(のべ人)	32	34	32
相談件数(件)	224	234	276
うち(男性)	177	196	228
(女性)	47	38	48
(陽性者)	1	4	2
1日平均(件)	17.2	16.7	23.0

ドラマの再放送や新聞報道等の影響でしょうか。こここのところ、予想を上回るペースで相談が多くなっています。今年も夏休み過ぎにはさらに増えるのでしょうか。息のぬけない状況を横目に、暑く長い新人研修を迎える季節となりました。（報告：沢井）



相談に熱中し、電源コードを足で誤って引き抜くこともあるとか？

ぷ☆PEP

若者による若者のための予防啓発活動

ぷ PEPミーティング実施状況

- 4月 19日 定期ミーティング
- 5月 9日 定期ミーティング
- 6月 21日 定期ミーティング

相談メール件数

- 4月 7件（女6件 男0件 不明1件）
- 5月 13件（女7件 男4件 不明2件）
- 6月 12件（女11件 男0件 不明1件）

以前は「妊娠避妊」に関する相談が多かったが、5月くらいから「セックス・関係性」に関する相談が増えてきた。

7月から、相談者に返信する際に「性別・年齢・この相談のことをどこで知ったか」を答えられる範囲で協力してもらおうようにうたっているが、反応は薄い。（報告：柳田）

バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

（第1木曜 11:00 ~ 第3木曜 18:30 ~）			
4/8	4人	4/22	5人
5/6	4人	5/20	4人
6/3	3人	6/17	5人

利用者数（2004/4 ~ 2004/6）

5カ所の病院に通院中、もしくは入院中の16名の方に22名のバディスタッフを派遣。

新規派遣

引越しの片づけ	1件
入院中の外出の付き添い	2件
合計	3件

派遣修了

1件

派遣調整中

3件

訪問先（2004/6月末現在）

在宅訪問	11件
病室訪問	4件
在宅への電話のみ	1件

バディ担当中のスタッフ構成（6月末現在）

女性12名 男性6名

パディの現場から

今回も新規派遣が2件、派遣調整が必要なケースがいくつかありました。すでに調整・派遣済のものもありますが、調整中のものもいくつかあります。4月以降で、活動できるようになった方等ありましたらぜひご連絡下さい。またP12にて紹介していますが、9月に各部門と合同研修を行う予定です。そこで更にパディ・スタッフを増員して、円滑な派遣ができるようにしていきたいと思えます。

(文責：牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)	(*ファシリテーターなど)
4月	28日	129名	(5名)	(6名)
5月	24日	135名	(4名)	(14名)
6月	27日	122名	(10名)	(16名)

(*はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

ピア・グループ・ミーティング (PGM)

- ・新人 PGM 第 17 期 (参加者 6 名)
4/29 5/15 5/29 6/19 (修了)
- ・陰性パートナー・ミーティング
4/10 (4名) 5/9 (3名) 6/12 (5名)
- ・ミドル・ミーティング
4/10 (6名) 5/9 (6名) 6/12 (5名)
- ・グリーフ・ワーク 4/12 (1名)

ネスト・プログラム

- 5/1 ネスト庵初夏のお茶会
(ご亭主1名、参加者：5名)
- 5/23 プラス・ランチパーティ
(企画・主催：カップル交流会 参加者：26名)

ミーティング (陽性者メンバー / ぶれいす東京スタッフ)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング
6/29 (5/5名)
- ・新陽性者 PGM 効果評価ミーティング
4/13 (4/3名) 5/11 (3/3名) 6/21 (3/3名)
- ・web NEST 運営委員会
4/16 (2/2名) 5/21 (4/2名) 6/25 (3/2名)
- ・ネストのあり方を考える会
6/16 (4/6名) ネスト・アンケート作成ミーティング

ネストのあり方を考える会では、ネストを利用している方などからの率直な意見・希望を伺うために、アンケート調査を行うことになりました。7/23～8/22にかけて、ネストの回答紙ボックスに投函・ネストNLに同封した書類を返送・web上のアンケートに記入、のどれか一つの方法で回答をお願いしています。結果もネストNLでお知らせする予定です。

*お知らせ

ネスト・事務所の夏休みに伴い、8月の陰性パートナー・ミーティングとミドル・ミーティングはお休みになります。次回は9月の開催です。

(報告者：はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動

<http://gf.ptokyo.com>

Gay Friends for AIDS 電話相談

4月	9件 (平均2.25件)
5月	10件 (平均2.0件)
6月	8件 (平均2.0件)

celebration ブース出店

4月4日のオカマの日を祝って、新宿歌舞伎町のクラブハイツで開催されたイベントにブースを出店した。このイベントの収益はネストの運営に寄付された。感謝。

G-navi 東京ゲイライフ入門

(5月9日 於：新宿文化センター)

今春東京でゲイライフを始めた人に向けたイベントで、5名のゲストによる「2丁目」やWeb、ハッテン場等に関するトーク、ぶれいす東京タートルズ劇団のHIV/AIDS予防啓発ショーや、交流タイムで盛り上がりを見せた。皆さんお疲れ様でした。参加者約70人の人々で会場を埋めつくしてくださいました。

NLGR 2004 (6月5日、6日)

田口弘樹写真展開催

NLGR担当の選出者による、ぶれいす東京制作Living Togetherの朗読会

Living Together 計画始まる

田口弘樹写真展「LIVING TOGETHER」(新作)や朗読会、ゲストによるトークイベントを開き、「『みんな』一緒に生きているんだなあ」と感じてもらうためのプロジェクト。同時にチャリティーパーティも開催され、その収益は冊子制作の費用にされる予定。

8月22日(日)～9月5日(日)

於：community center akta (メイン会場)

呼びかけ団体：NPO法人ぶれいす東京 Rainbow Ring

Voice04 開催決定!

軽音楽やコーラスなど、今回も内容盛りだくさんで開催予定。出演者とは現在交渉中で、ぶれいす東京も独自の企画に向けて活動中。11月27日 於：新宿区立四谷区民ホール

(報告：たかし)

HIV陽性者への相談サービス

相談実績

2004年	4月	5月	6月
電話による相談	44	41	62
対面による相談	41	22	50
E-mailによる相談	135	108	123
うち新規相談	12	17	26

新規来訪者情報源

- ・インターネット (12人)
- ・医療従事者 (9人)
- ・パートナー / 配偶者 (4人)
- ・他団体 (4人)
- ・電話相談 (3人)
- ・保健所 / 検査所 (3人)
- ・他陽性者 (2人)

- ・以前より知っていた(2人)
- ・友人/知人(1人)
- ・障害者福祉(1人)
- ・印刷物等(1人)
- ・不明(13人)

新規相談者の属性

HIV陽性者	42人(男40:女2)
パートナー/配偶者	8人
友達	3人
家族	1人
その他	1人

相談内容

新規の相談者が増えている。内容は、告知直後の不安が多く寄せられた。一般の医療機関にて何らかの体調不良があるなかで陽性である事が確認された場合の相談では、そのHIV検査に至る経緯についてや、その後の専門医療機関の紹介などに関する内容が少なからずある。また、住宅ローンや生命保険等、長期に生活することを前提にした相談等も増えている。

(報告:生島)

研究部門

厚生労働省委託 厚生労働科学研究

「HIV感染予防対策の効果に関する研究」(2003年度~)
4月上旬には2003年度の研究報告書が完成しました(概要は2003年度活動報告書をご参照)。4月下旬から研究協力校(高田馬場地区の福祉系専門学校)に対し2003年度に引続いでの協力依頼を行い、今年度も協力の合意を得ました。これに基づく数度の班会議を経て、6月下旬から研究協力校在籍の10代の学生を対象に、ビデオ“Let's CONDOMing”の啓発効果測定のアナケート調査を実施中です。また、来る8月22日(日)と同月28日(土)には、昨年度に引き続き(財)日本性教育協会と「性教育のための実践セミナー」を開催予定です(詳細はP.12のご案内をご参照。どうぞふるってご参加下さい)。

「HIV感染者の地域生活支援におけるソーシャルワーカーの連携に関する研究」(2003年度~)

「HIV感染者の療養生活と就労に関する調査研究」の中間報告書、「身体に障害をもつHIV陽性者・家族の社会資源の利用に関する調査」の報告書が完成しました(内容については2003年度活動報告書をご参照)。前者については、全回答567票の集計をもとにした(最終)報告書及びパンフレットを今後制作のうえ、(財)エイズ予防財団主催・助成の「研究成果発表事業」にて、調査にご協力戴いた全国5ヶ所の拠点病院のご協力を仰ぎ、報告会を各地で開催予定です。

(財)エイズ予防財団助成 研究成果発表会

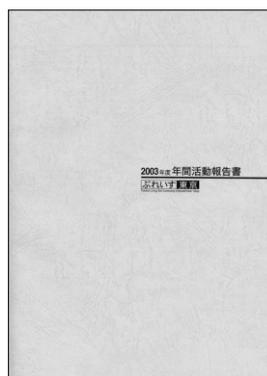
『Living Together - HIV陽性者参加型のMSM予防啓発手法の開発 -』

5月9日(土)13時~16時40分新宿文化センターにて、(財)エイズ予防財団主催、ぶれいす東京Gフレ企画・運営により『G-navi』と銘打って行われました。詳しくはP.7をご参照下さい。第二弾として、8月22日(日)に新宿二丁目にて行われるレインボー祭りの開催に合わせ、“Living Together”をテーマにした新しい形の普及啓発の実践を企画中です。

(報告者:吉田)

出版案内

2003年度年間活動報告書



ぶれいす東京の多彩な活動がこの一冊でわかります!

ご挨拶:「時代の足音」池上千寿子

活動記録:事務・総務/ホットライン/ぶ PEP

Gay Friends for AIDS/インスト/パディ

陽性者や周囲の人への相談サービス/研究事業

研究報告:厚生労働科学研究報告

-HIV感染予防の効果に関する研究

-HIV感染者の療養生活と就労に関する調査研究

-身体に障害をもつHIV陽性者・家族の社会資源の利用に関する調査

服薬と生活



2003年9月に行われた「服薬と副作用に関するwebアンケート調査」の結果をまとめたものが「服薬と生活」という冊子になりました。総数105名、20代から60代のHIV陽性者に回答していただき、大変興味深い集計結果となりました。ご協力いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。

この冊子はアンケートの集計結果と自由記述で構成されています。「服薬とQOL」「長期療養に備えて」「医師や病院とのつきあい方」「容姿や体形の変化」など、興味深い内容の記述が豊富に掲載されています。長期療養に伴う、服薬と生活の質を考える上での資料としてお役にてください。

協賛:セローノ・ジャパン株式会社

発行:ぶれいす東京、JaNP+

「活動報告書」「服薬と生活」の入手方法はぶれいす東京事務所へお問い合わせください。

E-mail: info@ptokyo.com

TEL: 03-3361-8964

お知らせ

～セミナー・寄付のお願い・募集～

開講！ 2004年度 性教育のための実践セミナー
～セクシュアル・ヘルスの気づきから工夫へ～
性教育をもっと楽しく、もっと豊かに実践してみませんか？ セクシュアル・ヘルスの視点から、性と性教育を考えます。授業で“使える”工夫も、盛りだくさん！

主催：財団法人 日本性教育協会（JASE）
企画・実施：特定非営利活動法人 ぶれいす東京
会場：日本性教育協会 セミナールーム
日時：
コースⅠ（基礎編）
2004年8月22日（日）10：00～16：40
8月28日（土）10：00～16：40
コースⅡ（応用編）
2005年2月5日（土）10：00～16：40
2月6日（日）10：00～16：40

詳しくは「ぶれいす東京」ホームページをご覧ください。

賛助会員入会・寄付のお願い

賛助会員入会のお願い
継続して応援して下さる方は賛助会員になってください。

--- 賛助会員になるには？ ---

メールか電話/FAXで賛助会員入会をお申し込みください。折り返し、ぶれいす東京の案内と賛助会費専用の振込用紙をお送りします。

E-MAIL info@ptokyo.com
電話 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835
年会費 個人賛助会員（一口） 1万円
団体賛助会員 （一口） 10万円

寄付のお願い

そのほか随時寄付をお受けしています。ぶれいす東京の活動をぜひともご支援ください。ご寄付はいくらでも結構です。匿名でも可能です。

--- 寄付の振込み方法 ---

ぶれいす東京の活動全般に対する寄付
郵便局 郵便振替口座 No.00160 - 3 - 574075
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子
銀行 三井住友銀行 高田馬場支店 普通 2041174
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子
HIV 陽性者への直接支援活動「ネスト / パディ」への寄付
銀行 東京三菱銀行 高田馬場支店 普通 1314375
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子
Gay Friends for AIDS の活動への寄付
銀行 みずほ銀行 高田馬場駅前支店 普通 5507255
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 理事 生島 嗣

編集後記

- 暑さでバテた時、クールタイプの入浴剤を入れての半身浴！結構オススメです。（こんどう）
- 陽性、偽陽性、陰性……。陽性者本人、パートナー、支援者、さまざまな立場の人たちが今号にも登場します。みんな当事者なんです。Living Togetherってことですね。（やじま）
- ぶれいす東京事務所/ネストともに8月13日（金）～17日（火）まで夏休みとさせていただきます。この夏のぶれいす東京は、JAICA研修の受託、福岡LAFの写真展の手伝いなど、その間も忙しくしています。（いくしま）

ボランティア募集！ あなたも活動に参加しませんか
今回も下記のとおり様々なボランティア・スタッフを募集しています。

- 1 HIV 陽性者のサポート活動
- 2 エイズ不安の電話相談員
- 3 若者向け予防啓発活動「ぶ PEP」のスタッフ
- 4 ゲイ向け予防啓発活動
「Gay Friends for AIDS」のスタッフ
- 5 グループ活動のファシリテーター
- 6 Web デザイナー / 編集スタッフ

興味のある方はまず事務所にご連絡いただき、オリエンテーションでぶれいす東京のボランティアについて概要説明を受けてみて下さい。その上で、活動に参加することを決めた方のみ、3日間の合同研修にお進み下さい。

お問い合わせ・お申し込みは
TEL：03-3361-8964
E-mail：info@ptokyo.com

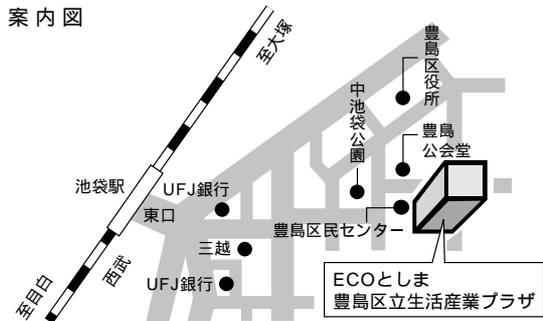
オリエンテーション

日時：9月5日（日）14：00～16：00

*受付は13：45より開始予定

会場：豊島区立生活産業プラザ 8F多目的ホール
豊島区池袋1-20-15 TEL：03-5992-7011
（JR池袋駅東口より徒歩7分）

案内図



合同研修会

日時：9月12日（日）10：00～16：00

9月20日（月・祝）10：00～16：00

9月26日（日）10：00～16：00

会場：すべてオリエンテーション会場と同じ。

昨年度の研修内容は以下の通り。今年も多才な講師陣の個性的な講義やワークショップを受講できます。詳しくはオリエンテーションにて。

1日目	2日目	3日目
社会的な背景	セクシュアリティと多様性	プライバシーとは
医学的基礎知識 （HIVの基礎知識）	エゴグラム （自己分析）	感染者の手記を読む
Safer Sex Work リスクアセスメント	エゴグラムと交流分析	コンドームの使用法
医学的基礎知識 （性感染症の基礎知識）	医学的基礎知識 （HIVとその検査法）	相手ある保健行動 （コンドーム使用と使用依頼）
HIV陽性の告知と予防	HIV感染後の生活と 社会生活	振り返りの時

編集・発行：ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304

TEL：03-3361-8964（月・金 12:00～19:00）

FAX：03-3361-8835

E-mail：info@ptokyo.com

ぶれいす東京HP：<http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS：<http://gf.ptokyo.com/>

web NEST：<http://www.jade.dti.ne.jp/nest/>

Sexual Health：<http://shw.ptokyo.com>